

研究課題名	ヒトメタニューモウイルス感染症の重症化因子の同定
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 小児科 氏名 岡田 麻理
研究期間	倫理委員会承認日 ~ 令和 3年 3月31日
研究の意義・目的	<p>ヒトメタニューモウイルス(human metapneumo virus : hMPV)は、2001年にRSウイルスと同様の臨床症状を呈する小児から新たなウイルスとして発見され、呼吸器感染の5-10%を占めることが明らかになった。臨床症状は上気道感染が主だが、乳幼児、高齢者、免疫機能の低下した状態では下気道感染を呈し、中には肺炎から呼吸窮迫症候群に至る症例が報告されている。また脳炎、脳症を引き起こした症例も報告されている。</p> <p>2014年からイムノクロマト法によるhMPV抗原定性が保険適用になり、迅速に診断ができるようになった。迅速診断以前のPCRを用いていた時期も含め、重症化に関する検討では、女児、早産児、基礎疾患の存在が指摘されているが、その報告は少ない。簡易診断が可能となり診断数が増え、その臨床経過が明らかになってきているが、重症化に関する報告はない。</p> <p>hMPVと同じパラミクソウイルス科に属するRSウイルスでは早産、気管支肺異形成、先天性心疾患、染色体異常、免疫不全などの重症化リスクを有する患児にモノクローナル抗体を投与することで重症化の抑制に成功している。現在hMPVに対する特異的な治療や予防薬は存在しないが、ワクチンやモノクローナル抗体の研究が進んでいる。今後実用化された際に、これらの薬を適切に使用するために重症化因子を把握することは大切だと考えられる。本多施設共同研究の目的は、ヒトメタニューモウイルス感染症の臨床像、特に重症化する背景の解明、症状が類似しているRSウイルス感染症との違いを明らかにすることである。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	2014年1月1日～2019年12月31日の間に当院、および研究協力が得られた共同研究施設において、hMPV迅速抗原検査が陽性の入院加療が必要となった6歳未満の全患者の診療データを後方視的に検討する。
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用するものの範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称	<p>①臨床情報は匿名化し東京医科歯科大学へ提供する。</p> <p>②患者に関する情報としては、受診年月、年齢、性別、身長、体重、在胎週数、出生体重、基礎疾患、在宅酸素、発症日、入院日、退院日、診断、入院時のバイタルサイン(心拍数、呼吸数、酸素飽和度、血圧)、聴診所見、血液検査所見、胸部レントゲン所見(肺門部透過性低下、過膨張、無気肺、浸潤影)、治療(抗菌薬、気管支拡張薬、ステロイド、酸素)、呼吸器管理の有無、担当医師名を扱う。</p> <p>③臨床情報の利用は、研究責任者(東京医科歯科大学 渡邊友博、当院 岡田麻理のみとする。</p> <p>④情報の管理は研究責任者の岡田(下記参照)が行う。</p>
問合せ先	<p>当研究に自分の資料・情報利用を停止する場合のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 小児科 氏名 岡田 麻理</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>